

大学正会員認定基準（1級）

大学正会員認定基準（1級）

〔2024年3月〕

一般社団法人 日本衣料管理協会

1. 第71回理事会（平成2年9月5日開催）で決定
2. 平成3年4月入学生より適用

1. 第30回常任理事会（平成5年9月17日開催）で一部改正
2. 平成6年4月入学生より適用

1. 第84回理事会（平成8年5月22日開催）で一部改正
2. 平成8年4月入学生より適用

1. 第88回理事会（平成9年9月18日開催）で一部改正
2. 施設設備の改正

1. 第98回理事会（平成13年3月7日開催）で一部改正
2. 科目の基準の一部改正

1. 第27回総会（平成14年5月24日開催）で一部改正
2. 流通・販売を軸に見直す
3. 平成15年4月入学生より適用

1. 第32回総会（平成19年5月22日開催）で一部改正
2. 機械器具の基準の一部改正、助教の規定を加える

1. 第127回理事会（平成23年7月26日開催）で一部改正
2. 必修を33単位から24単位に減らし、選択を増やすことにより大学の自由度を広げる
3. [内容]の規定を14項目に統一
4. 平成24年4月入学生より適用

1. 第173回理事会（令和6年3月1日開催）で一部改正
2. 科目、機械器具の基準の一部改正
3. 令和6年4月入学生より適用
4. 2級の助手について内規を制定、令和6年10月より適用

目 次

I. 1級衣料管理士の認定には	1
II. カリキュラム編成の方法他	2
III. 担当教員の基準	6
IV. 施設・設備の基準	9
V. 科目の基準	11
被服繊維学〔A、講義、2単位〕	12
被服材料学〔A、講義、2単位〕	13
繊維学実験Ⅰ〔A、実験、1単位〕	14
繊維学実験Ⅱ〔B、実験、1単位〕	16
材料学実験Ⅰ〔A、実験、1単位〕	18
材料学実験Ⅱ〔B、実験、1単位〕	20
繊維製品試験法〔B、講義、2単位〕	22
機器測定法〔B、講義、2単位〕	23
高分子化学〔B、講義、2単位〕	24
機能材料学〔B、講義、2単位〕	25
テキスタイル基礎科学〔B、講義、2単位〕	26
品質管理〔B、講義、2単位〕	27
統計学〔B、講義、2単位〕	28
インテリア繊維製品〔B、講義、2単位〕	29
テキスタイルデザイン〔B、実習、1単位〕	30
被服整理学〔A、講義、2単位〕	31
染色加工学〔A、講義、2単位〕	32
被服整理学実験〔A、実験、1単位〕	33
染色加工学実験〔B、実験、1単位〕	34
繊維加工学〔B、講義、2単位〕	35
工芸染色実習〔B、実習、1単位〕	36
衣料用洗剤試験法〔B、実験、1単位〕	37

染色堅ろう度試験法〔B、実験、1単位〕	38
繊維加工学実験〔B、実験、1単位〕	39
繊維製品の取扱いに関する試験法〔B、実験、1単位〕	40
アパレル企画論〔A、講義、2単位〕	41
アパレル設計論〔A、講義、2単位〕	42
アパレル設計実習〔A、実習、1単位〕	43
アパレル生産実習〔A、実習、1単位〕	45
アパレル生理衛生論〔A、講義、2単位〕	47
アパレル生産論〔B、講義、2単位〕	48
アパレルデザイン論〔B、講義、2単位〕	49
アパレル企画実習〔B、実習、1単位〕	50
アパレルデザイン表現実習〔B、実習、1単位〕	51
アパレルCAD実習〔B、実習、1単位〕	52
色彩学〔B、講義、2単位〕	54
色彩実習〔B、実習、1単位〕	55
アパレルグラフィック実習〔B、実習、1単位〕	56
インテリアコーディネート概論〔B、講義、2単位〕	58
アパレル生理衛生実験〔B、実験、1単位〕	59
機能アパレル論〔B、講義、2単位〕	61
消費科学〔A、講義、2単位〕	62
消費生活論〔A、講義、2単位〕	63
テキスタイルアドバイザー実習〔A、実習、1単位〕	64
ファッションビジネス論〔B、講義、2単位〕	65
マーケティング論〔B、講義、2単位〕	66
生活行動論〔B、講義、2単位〕	67
ファッション販売論〔B、講義、2単位〕	68
ファッションリテール実習〔B、実習、1単位〕	69
ファッション商品論〔B、講義、2単位〕	70
消費者調査法〔B、演習、1単位〕	71
衣生活文化論〔B、講義、2単位〕	72
消費者経済学〔B、講義、2単位〕	73
被服心理学〔B、講義、2単位〕	74
ケーススタディ〔B、実習、1単位〕	75
ファッションビジネスの世界〔B、講義、2単位〕	76

新基準の適用年度

この大学正会員認定基準（1級）は、
2024年度入学生より適用されます。

I. 1級衣料管理士の認定には

大学の申請

1級衣料管理士（テキスタイルアドバイザー：TA）の教育を行おうとする大学は、日本衣料管理協会（以下「協会」）の指定する科目によりカリキュラム編成を行い、関連する教員組織、実験・実習科目に必要な施設設備、その他を協会所定の申込書にまとめ、協会あて入会申込みの申請を行ってください。

協会の審査

大学の申請に基づき、協会はカリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備など関係事項をこの基準に従って審査します。

協会の認定・登録

審査の結果、カリキュラム編成、単位数、教員組織、施設設備など1級TA養成教育に必要な条件を満たし、1級TA養成教育を行う大学として協会の認定を受けた大学は1級TA養成教育を始めることができます。認定と同時に、協会は認定大学のTA認定定員、カリキュラム編成、単位数、教員組織などを登録します。

1級TAの認定

協会は、上記の登録カリキュラム・単位を履修し、最終試験合格のうえ卒業した学生に対して『1級衣料管理士資格認定証』を交付します。

※最終試験は2023年度より実施。

一様・選択履修制

1級TA認定に必要な単位履修システムには、学生が一様に履修する『一様履修制』と、学生が科目を選択できる『選択履修制』の2つがあります。1級TA養成教育を行う大学は、養成を始めるにあたって一様履修制、選択履修制のいずれかを選ぶことができます。（2ページ参照）

II. カリキュラム編成の方法他

1. カリキュラム編成のねらい

カリキュラム編成にあたっては、卒業生を送り出す業種や就職分野などをもとに『1級T Aカリキュラム編成のねらい』を定めてください。

2. カリキュラム編成と単位数

(1) カリキュラム編成

『編成のねらい』をもとに、後記のA欄（必修）とB欄（選択）の科目を組み合わせてカリキュラムの編成を行ってください。

(2) 単位数

1級T Aの認定に必要な最低単位数は43単位です。43単位のうち必修（A欄）の単位数は、「材料」「加工・整理」「企画・設計・生産」「流通・消費」の4グループ合計で24単位です。これに、B欄（選択）より選ぶ19単位を加えて43単位を構成してください。

3. 一様履修制・選択履修制

大学は、「一様」「選択」のいずれかの履修制を決めてください。

(1) 一様履修制：認定の対象となる学生が、すべて同じ1級認定カリキュラム（単位数）を履修するものです。

(2) 選択履修制：認定の対象となる学生が、B欄の科目を選択できるものです。

4. 選択履修制での選択科目の開講幅

選択履修制を採用する大学は、B欄の科目を19単位から29単位の幅で開講することができます。すなわち、大学は、A欄の24単位の必修単位に、B欄の19～29単位を加え、最低43単位から最高53単位まで養成科目を開講できます。

A欄の必修24単位を履修した学生が、B欄の選択科目の中から自由に19単位以上を選択し、43単位以上を履修した際に1級の認定申請ができます。

A欄の必修24単位	+	B欄より19単位～29単位（学生が自由選択）
-----------	---	------------------------

= 学生が43単位以上を履修して1級認定

この場合、個々の学生の履修単位は同一でなくなりますが、協会に対する1級T A認定申請は、一様履修制と同様に大学経由で一括して行ってください。

5. 推奨科目

協会が開講を推奨する科目です。

6. 規定外科目は4単位まで開講可能

4ページのA欄（必修）と5ページのB欄（選択）の科目が協会が規定する1級TA養成科目です。大学は、協会の指定科目にない科目を協会に申請し審査を受けることができます。その際、TA養成にとって適切な科目であれば4単位まで認められます。

7. 科目の統合

同一グループ内の同系統の2科目を統合して1科目とすることができます。

8. 科目名称の読み替え

基準に定める規定の内容に適合する授業内容をもつ科目は、規定の名称と違う名称であっても読み替えが認められます。読み替えは、協会規定の内容を概ね包含することが条件となります。

9. TA養成大学がカリキュラムを変更するときの対応

既に認定を受けたTA養成大学において、TA育成方針の見直しなどに伴い従来の科目を養成科目から除外したり、新しい養成科目を加えたり、従来の養成科目の単位数を増加・減少するような変更が起こった場合は、次のように対応してください。

◆これらの変更が6件以上のときは、協会にカリキュラム編成変更認定申込みをしてください。

◆5件までの変更は、年次報告書に記載して変更事項を協会へ連絡してください。

協会の指定科目 〔1級〕

必修科目（A）

必修（A）	
グループ	科 目
材 料	<ul style="list-style-type: none"> ・被服繊維学（講2） ・被服材料学（講2） ・繊維学実験Ⅰ（実1） ・材料学実験Ⅰ（実1）
	小計 6単位
加工・整理	<ul style="list-style-type: none"> ・被服整理学（講2） ・染色加工学（講2） ・被服整理学実験（実1）
	小計 5単位
企画・設計・ 生産	<ul style="list-style-type: none"> ・アパレル企画論（講2） ・アパレル設計論（講2） ・アパレル設計実習（習1） ・アパレル生産実習（習1） ・アパレル生理衛生論（講2）
	小計 8単位
流通・消費	<ul style="list-style-type: none"> ・消費科学（講2） ・消費生活論（講2） ・テキスタイルアドバイザー実習（習1）
	小計 5単位
合 計 24単位	

注）講＝講義、実＝実験、習＝実習 を指します。

選択科目（B）

選 択（B）	
繊維学実験Ⅱ（実1）	アパレルデザイン表現実習（習1）
材料学実験Ⅱ（実1）	アパレルCAD実習（習1）
繊維製品試験法（講2）	色彩学（講2）
機器測定法（講2）	色彩実習（習1）
高分子化学（講2）	アパレルグラフィック実習（習1）
機能材料学（講2）	インテリアコーディネート概論（講2）
テキスタイル基礎科学（講2）	アパレル生理衛生実験（実1）
品質管理（講2）	機能アパレル論（講2）
統計学（講2）	ファッションビジネス論（講2）
インテリア繊維製品（講2）	生活行動論（講2）
テキスタイルデザイン（習1）	マーケティング論（講2）
染色加工学実験（実1）	ファッション販売論（講2）
繊維加工学（講2）	ファッションリテール実習（習1）
工芸染色実習（習1）	ファッション商品論（講2）
衣料用洗剤試験法（実1）	消費者調査法（演1）
染色堅ろう度試験法（実1）	衣生活文化論（講2）
繊維加工学実験（実1）	消費者経済学（講2）
繊維製品の取扱いに関する試験法（実1）	被服心理学（講2）
アパレル生産論（講2）	ケーススタディ（習1）
アパレルデザイン論（講2）	ファッションビジネスの世界（講2）
アパレル企画実習（習1）	
19単位～29単位を選択	

■ = 協会が開講を推奨する科目

Ⅲ. 担当教員の基準

1. 必置の教員と助手

(1) 教 員

- ① 「材料」、「加工・整理」、「企画・設計・生産」、「流通・消費」の4グループにわたり5名の専任者が必要です。そのうちの1名はT A養成教育に特徴を出すための重点配置とします。
- ② 専任者5名のうち4名については、上記4グループに各1名ずつ必置となります。ただし、「流通・消費」グループの専任者は、兼担または兼任をもってかえることができます。他グループの専任者が兼ねることもできます。
- ③ 重点配置の1名は、4グループのいずれかに配置してください。

上記を表にすると下記のとおりです。

グループ	専任者の数	
	必 置	重点配置
材 料	1	1
加工・整理	1	
企画・設計・生産	1	
流通・消費	1	
計	5	

(2) 助 手

実験・実習科目には、専任助手を置くものとします。専任助手は、「助教」または「助手」の資格を有する者とし、その規定数は下表のとおりです。

重点配置の1名は、4グループのいずれかに配置してください。

（定員40名以下の場合）

グループ	専任助手の数	
	必 置	重点配置
材 料	1	1
加工・整理	1	
企画・設計・生産	1	
流通・消費	—	
計	4	

(3) 助 教

助教は科目を担当することができます。したがって、助教を専任者として規定数に数えることができます。また、助手としても規定数に数えることができます。ただし、同一人が専任者と助手を同時に兼ねることはできません。

2. 実験系の教員等および教員と助手の資格

(1) 実験系の教員等

①実験・実習科目は専任教員（助教以上）が担当することとします。ただし、以下の実験・実習・演習科目については、兼任をもってかえることができます。

繊維学実験Ⅱ	(実) 1	アパレルデザイン表現実習	(習) 1
材料学実験Ⅱ	(実) 1	アパレルCAD実習	(習) 1
テキスタイルデザイン	(習) 1	色彩実習	(習) 1
染色加工学実験	(実) 1	アパレルグラフィック実習	(習) 1
工芸染色実習	(習) 1	アパレル生理衛生実験	(実) 1
衣料用洗剤試験法	(実) 1	テキスタイルアドバイザー実習	(習) 1
染色堅ろう度試験法	(実) 1	ファッションリテール実習	(習) 1
繊維加工学実験	(実) 1	消費者調査法	(演) 1
繊維製品の取扱いに関する試験法	(実) 1	ケーススタディ	(習) 1
アパレル企画実習	(習) 1		

②大学、短大の併設校では、同一人が大学、短大の同じ系統の実験を担当することができます。（教員、助手ともに）

(2) 教員と助手の資格

①養成に係わる教員ならびに助手は次の条件を備えるものとします。

◆教育・研究に熱意があること。

◆衣料管理士養成の理念を十分理解し、これを達成するのに誠実であること。

②教員としての資格は、文部科学省令大学設置基準に則しますが、資格審査に当たっては特に最近5年の教育、研究業績を重視します。

③助手は原則として次の資格のいずれかを備えるものとします。

1) 衣料管理士資格者

2) 4年制大学の卒業生で、卒業研究または実験・実習・演習履修科目が関係する実験・実習・演習科目と直接つながりがあり、実験・実習・演習の技術指導の補助能力がある者。

3) その他上記に相当する能力が認められる者

IV. 施設・設備の基準

(1) 実験・実習室

実験実習室	対応科目	人数（名）	面積（㎡）
第1実験室	繊維学実験 材料学実験	40	120以上
第2実験室	被服整理学実験 染色加工学実験ほか	40	120以上
企画・造形 実習室	アパレル設計実習 アパレル生産実習ほか	40	120以上

注：1) アパレル生理衛生実験室については、他の実験・実習科目との共用でもかまいません。

2) B欄より実験・実習・演習科目を選ぶ場合は、それに対応する実験・実習・演習室が必要です。

[その他、望ましい付属施設]

恒温恒湿室	($20^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$ $65 \pm 5\% \text{RH}$) 40㎡以上
-------	-----------------------------------------------------------------------------

(2) 機械器具

実験・実習授業に必要な機械器具の規定数などは各実験・実習科目の〔設備〕の欄に掲げます。

(3) 研究室

実験・実習・演習担当の専任教員専用の研究室を設けることが望ましい。

(4) 専門図書

TA養成教育の開講科目に必要な専門図書を整備することが望ましい。

V. 科目の基準

（必要理由・水準・内容他）

科目名〔被服繊維学〕

〔A、講義、2単位〕

〔必要理由〕

繊維製品を取り扱うどのような立場においても、糸・布（織物・編物など）および二次製品の原料である繊維の基礎知識をもつことが必要である。

〔水準〕

繊維の構造と性質を、分子・微細構造のおよび形態的に考えることができ、繊維素材の種類、性質、用途が基本的に理解できる程度。

〔内容〕

繊維材料としての高分子

1. 高分子（高分子の種類と分類、低分子と高分子、重合）
2. 高分子の構造（分子構造、凝集構造、配向、結晶と非晶）
3. 高分子の性質（熱的性質、力学的性質、化学的性質）

繊維の種類と性質

4. 繊維の種類と分類
5. 繊維の構造（繊維の形態、長さとかさ）
6. 繊維の性質（力学的性質、化学的性質、物理化学的性質・染色性、その他の性質）

天然繊維

7. 植物繊維
8. 動物繊維、鉱物繊維

化学繊維

9. 紡糸、延伸、熱処理など
10. 再生繊維、半合成繊維
11. 合成繊維
12. 高機能繊維
13. 環境対応型繊維、繊維のリサイクル

繊維と被服材料

14. 被服材料の性質

科目名〔被服材料学〕

〔A、講義、2単位〕

〔必要理由〕

糸、布、その他の被服材料に関して、その種類や製造プロセス、性質、取扱い方法などの基本的知識をもつことが必要である。

〔水準〕

糸や布の基本的知識を充分理解し、商品企画、製造、販売、品質管理、消費などに活用できる程度。

〔内容〕

糸

1. 糸の分類（フィラメント糸、紡績糸、複合糸など）
2. 糸の製造プロセス①（綿糸紡績）
3. 糸の製造プロセス②（毛糸紡績<梳毛糸・紡毛糸>、テクスチャード加工など）
4. 糸の構造と性質（番手、合糸数、より係数、力学的性質）

布

5. 織物の分類、織物の製造法
6. 織物の組織と表示、織物の構造と性質
7. 編物（ニット）の分類（たて編、よこ編）と製造法
8. 編物の組織と表示、編物の構造と性質
9. 不織布の種類と製造、不織布の構造と性質
10. その他の布（接着布、レース、皮革など）

布の消費性能

11. 力学的性質（強伸度特性、剛軟性、せん断性、耐疲労性など）
12. 外観的性質（ピリング、スナッグ、防しわ、収縮・形態安定性など）
13. 着心地・快適さに関する性質（吸湿性、吸水性、透湿性、保温性、通気性など）
14. 消費と廃棄（環境対応型衣服の考え方、各種リサイクルと資源保護など）

科目名〔繊維学実験Ⅰ〕

〔A、実験、1単位〕

〔必要理由〕

繊維製品を取り扱うどのような立場においても、繊維学の基礎知識は不可欠で、実験を通してこれらの知識を身につけることが必要である。

〔水準〕

繊維および高分子に関する理解を深め、基本となる諸性質の測定ができる程度。

〔内容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

繊維の形態観察

2. 光学顕微鏡の取扱い、繊維の側面観察
3. 繊維の断面観察

繊維の燃焼試験

4. 燃焼法

繊維構造および繊維の物理的性質・化学的性質

5. 重合度の測定（粘度法）
6. 密度（比重）の測定（浮沈法）
7. 繊維の水分率測定
8. 試薬に対する溶解性（耐薬品性）
9. 鑑別用染料による染色性

繊維製品の鑑別と混用率

10. 混用素材の鑑別①（形態観察法など）
11. 混用素材の鑑別②（試薬による方法など）
12. 混用率の測定

繊維の製造実験

13. 銅アンモニアレーヨン（キュプラ）など
14. ナイロン66など

〔設 備〕

必要度	機 械 器 具 名	規定量	備 考
○	顕微鏡	5	接眼・対物マイクロメータを含む
○	電気恒温水槽	2	
○	精密天秤（電子天秤）	2	
○	恒温乾燥器	2	
○	比重計（ピクノメータでも可）	5	他の方法でも可
○	粘度計（オストワルド）	5	他の方法でも可
※	実体顕微鏡またはデジタルマイクロスコープ		
※	ドラフト		

規定量：機械器具の規定量は40名定員を前提にする。

マーク	意 味
○	必置の機械器具
※	設置が望ましい機械器具

科目名〔繊維学実験Ⅱ〕 推奨科目

〔B、実験、1単位〕

〔必要理由〕

繊維製品を取り扱うどのような立場においても、繊維学の基礎知識は不可欠で、実験を通してこれらの知識を身につけることが必要である。

〔水準〕

繊維および高分子に関する理解を深め、諸性質の測定が必要に応じて実施できる程度。

〔内容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

電子顕微鏡による繊維の形態観察

2. 電子顕微鏡（TEM、SEM）の原理
3. 電子顕微鏡（SEM）による繊維の形態観察・撮影

熱分析

4. 熱分析（DTA、DSC、TGA など）の基礎
5. 熱分析に関連する融解温度、軟化温度、ガラス転移温度などの解説
6. DTA または DSC による融解温度、ガラス転移温度などの測定

赤外吸収スペクトル

7. 赤外分光光度計の原理
8. 各種繊維の赤外分光スペクトルの測定
9. 赤外分光スペクトルによる混用繊維の推定、加工処理の判定

偏光顕微鏡

10. 偏光顕微鏡の原理
11. 繊維の複屈折度測定

その他の分析

12. 繊維の密度測定（結晶化度の算出）
13. X線回折と繊維図形の解説
14. 繊維の粘弾性測定（応力緩和・クリープの観察）

〔設 備〕

必要度	機 械 器 具 名	規定量	備 考
○	偏光顕微鏡	1	
○	比重計（ピクノメータでも可）	5	
○	赤外分光光度計	1	
○	電気恒温水槽	2	
○	精密天秤（電子天秤）	2	
○	恒温乾燥器	2	最高 300 °C
※	熱分析装置		DTA または DSC
※	走査型電子顕微鏡		
※	勾配管法密度測定装置		密度測定範囲 0.8～ 1.6 g/cm ³
※	X 線回折装置		

科目名〔材料学実験Ⅰ〕

〔A、実験、1単位〕

〔必要理由〕

繊維製品を取り扱うどのような立場においても、被服材料に関する基礎知識は不可欠で、実験を通してこれらの知識を身につけることが必要である。

〔水準〕

被服材料に関する試験の原理と正しい測定法を理解し、実際の現場で基本的な試験が実施できる程度。

〔内容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

糸の実験

2. 恒長式番手、恒重式番手による糸の表示
3. 合糸数、より方向、より数の測定、より係数の計算

布（織物、編物）の実験

4. 織物・編物組織と表示
5. 布構造に関する試験（厚さ、質量、糸密度・編目密度の測定）
6. 見かけ比重、含気率、カバーファクタの算出

布の消費性能試験

7. 引張り強さ・伸び試験
8. 摩耗強さ試験、引裂強さ試験
9. 防しわ性試験
10. 剛軟性試験
11. ドレープ性試験
12. 通気性試験
13. 保温性試験
14. 透湿性試験、吸水性試験

〔設 備〕

必要度	機 械 器 具 名		規定量	備 考
○	検ねん機		1	
○	引張試験機		1	
○	厚さ測定器		2	織物と編物に適用できるもの
○	防しわ性試験機	モンサント法	5	} いずれか
		針金法	5	
※		リンクル法		
○	摩耗試験機	ユニバーサル形法	} 1 い ず れ か	
		テーバ形法		
		ユニホーム形法		
		マーチンゲール法		
○	剛軟性試験機	45° カチレバー法	2	} いずれか
		スライド法	2	
		ハートルプ法	2	
※		クラーク法		
※		ガーレ法		
○	精密天秤（電子天秤）		2	
○	恒温乾燥器		1	
○	デンシメータ			糸密度測定用
○	保温性試験機			
○	通気性試験機			フラジール形、他の機種でも可
○	吸水性試験装置			バイレック法
※	スナッグ試験機			
※	ドレープテスタ			
※	引裂試験機			エレメンドルフ形
※	布せん断特性試験機			
※	デジタルマイクロスコープ			

科目名〔材料学実験Ⅱ〕 推奨科目

〔B、実験、1単位〕

〔必要理由〕

繊維製品を取り扱うどのような立場においても、被服材料に関する基礎知識は不可欠で、実験を通してこれらの知識を身につけることが必要である。

〔水準〕

被服材料に関する試験の原理と正しい測定法を理解し、実際の現場で実施・応用ができる程度。

〔内容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

繊維と糸の実験

2. 繊維の引張強さ・伸び率・ヤング率
3. 繊維の太さ（顕微鏡法による見かけの太さ）
4. 繊維の長さ（簡易法によるステープルダイアグラム）
5. 糸の引張強さ・伸び率（結節強さ、引掛強さ）

布（織物、編物）の消費性能試験

6. 織物の寸法変化率（浸せき法、家庭用洗濯機を用いる方法）
7. 編物の寸法変化率
8. 耐ピリング性試験
9. プリーツ保持性
10. 耐スナッグ試験、帯電性試験
11. 破裂強さ試験、縫い目強さ試験
12. 燃焼性試験
13. 耐水度試験、はっ水性試験
14. 風合い（官能検査）

〔設 備〕

必要度	機 械 器 具 名		規定量	備 考
○	引張試験機		1	
○	ピリング性 試験機	ICI 形法	} 1 い ず れ か	
		TO 形法		
		アピ・アランス・リテンション 形法		
		ランダム・タプル 形法		
○	破裂試験機		1	ミューレン形
○	燃焼性試験機		1	
○	耐水度試験装置		1	低水圧法
○	顕微鏡		5	
○	実体顕微鏡またはデジタルマイクロスコープ		2	
○	はっ水性試験機		1	スプレー法
○	恒温乾燥器		1	
○	精密天秤（電子天秤）		2	
○	家庭用電気洗濯機		1	
※	スナッグ試験機			
※	帯電性試験機			
※	ニットシュリンケージ ゲージテスタ			
※	テンションプレス			

科目名〔繊維製品試験法〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

繊維製品の試験・検査業務においては、広範囲にわたる繊維製品試験の原理と方法、評価の仕方などについての理解が必要である。

〔水準〕

JIS 試験法を中心として、品質管理や苦情処理のための試験方法、結果のまとめ方が理解できる程度。

〔内容〕

1. 繊維製品試験の目的と準備
2. 内外の繊維製品試験規格・試験条件とサンプリング法

糸の試験

3. 糸の種類と構造
4. 糸の各種性能

布（織物、編物、不織布）の試験

5. 布の種類と構造

布の消費性能

6. 形態安定性、外観特性
7. 着心地特性
8. 耐久性

製品の試験

9. 縫製部の試験（縫目強さ、滑脱抵抗力、その他の縫製欠点）
10. 接着芯と布地（はく離強さ、接着部の外観）

衣服の外観保持性

12. 着用による型くずれ・バギング（膝抜け、肘抜け）など
13. ドライクリーニング・洗濯、染色堅ろう度

苦情処理

14. クレーム事例

科目名〔機器測定法〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

繊維製品の試験・検査業務においては、衣料鑑別や事故原因究明、加工剤分析で迅速、正確を期するため機器を用いることが多い。そのため、最近の機器の使用方の知識が必要である。

〔水準〕

繊維製品と加工剤の構造の解析や成分の分析に用いられている機器の正しい使用法と結果の意味の理解ができる程度。

〔内容〕

1. 種々の機器測定法

分光分析

2. 分光分析の総論
3. 赤外吸収スペクトルの原理
4. フィルム、錠剤などの方法による測定法
5. スペクトル測定と解釈

分離分析

6. ガスクロマトグラフィーの原理
7. クロマトグラムの測定と解釈
8. 高速液体クロマトグラフィーの原理と応用

熱分析

9. 示差熱分析の原理
10. 示差熱曲線の測定（ガラス転移点、融点、分解温度の解釈）

偏光顕微鏡

11. 偏光顕微鏡の原理
12. 複屈折度と分子配向

X線回折と電子顕微鏡

13. X線回折の原理
14. 電子顕微鏡（TEM、SEM）の原理

科目名〔高分子化学〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

繊維や被服材料の構造と性質を理解するためには、基本物質である高分子についての理解が必要である。

〔水準〕

被服材料の性質と高分子の化学構造、高次構造および物性との関係を概念的に結び付けて理解できる程度。

〔内容〕

高分子化学の基礎

1. 高分子と繊維
2. 高分子の種類
3. 高分子の化学構造と性質
4. 高分子の分子運動とコンフォメーション
5. 高分子の高次構造と性質の関係
6. 高分子の熱的性質
7. 高分子の力学的性質
8. 変形と粘弾性（レオロジー）

高分子の生成と加工

9. 高分子の合成
10. 紡糸と成形加工

高分子の用途

11. 繊維材料
12. フィルム材料
13. プラスチック材料
14. 複合材料

科目名〔機能材料学〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

機能性繊維材料の製品を取り扱う場合、その基礎知識をもつことが必要である。

〔水準〕

代表的な機能性繊維材料を分子・微細構造および形態的に理解でき、さらに性質、用途が把握できる程度。

〔内容〕

機能材料の背景

1. 有機高分子繊維のひろがり
2. 高分子繊維の製造法の進展

衣料用特化素材

3. 新合繊素材の出現と進展
4. レザー調素材、高発色性素材
5. 機能性素材①（防水性素材、透湿防水性素材、はっ水性素材、吸湿・吸水性素材）
6. 機能性素材②（保温性素材、制電・導電性素材、ストレッチ性素材）
7. 機能性素材③（耐熱・難燃素材、紫外線遮蔽素材、消臭性素材、芳香性素材）
8. 環境対応型素材

高強度・高弾性率繊維

9. スーパー繊維の概念
10. 屈曲性高分子からのスーパー繊維
11. 剛直性高分子からのスーパー繊維

無機系の高性能繊維と特殊機能性繊維

12. 高性能無機繊維の種類と特徴
13. 炭素繊維とガラス繊維
14. エンジニアリングプラスチック繊維

科目名〔テキスタイル基礎科学〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

繊維製品の性質や機能を理解するためには、その背景にある自然科学的知識を身につけることが必要である。

〔水準〕

材料、加工・整理などの自然科学系専門分野の基礎を理解できる程度。

〔内容〕

物質の成り立ち

1. 原子と分子、原子量と分子量
2. 原子間または分子間の結合
3. 化学反応の種類と特徴（中和、酸化還元、置換、付加、離脱、重合など）
4. 無機化合物と有機化合物
5. 天然高分子化合物と合成高分子化合物

繊維材料の構造と性質

6. 鎖状高分子の配向と結晶化
7. 高分子材料の各種の性質（熱的性質、吸湿性など）

生活の科学

8. 物質と伝熱現象（伝導、対流、放射）
9. 保温体の構造と熱移動性
10. 物質の電気的性質（導体と半導体・絶縁体、帯電性）
11. 物質の力学的性質（応力とひずみ、弾性率、粘弾性）
12. 光と色彩
13. 色の表示法の実際
14. 染料と染色

科目名〔品質管理〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

企業における品質管理の意義を理解し、その手法を活用できることが必要である。

〔水準〕

企業における品質管理の重要性と、品質管理の進め方の基本を理解し、基礎的な品質管理手法が活用できる程度。

〔内容〕

品質管理の基本

1. 品質管理とは
2. 我が国における品質管理の歩み
3. 全社的品質管理とQCサークル活動
4. 工程の管理と改善
5. 問題解決の手順
6. 品質保証の考え方と仕組み

統計的方法の基礎

7. データの種類とデータのとり方・まとめ方
8. 母集団と標本
9. 度数分布と統計量の分布
10. 統計的検定と推定

品質管理基礎手法

11. QC 7つ道具
12. 新QC 7つ道具

検査

13. 検査の種類・実施
14. 抜取り検査

科目名〔統計学〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

調査や実験データから推論して客観的判断をするため統計的手法の基礎を習得することが必要である。

〔水準〕

統計処理の基本的な考え方を理解し、合理的な実験計画を立てられる程度。

〔内容〕

統計処理の考え方とデータの整理

1. 統計処理の考え方とデータの種類
2. 母集団と標本
3. 代表値と散布度

各種の分布

4. 計数値の分布（二項分布、ポアソン分布など）
5. 計量値の分布（正規分布）
6. 統計量の分布（t分布、 χ^2 分布、F分布）

検定と推定

7. 分散の検定と推定
8. 平均値の検定と推定
9. 計数値の検定と推定

分散分析

10. 一元配置の分散分析
11. 二元配置の分散分析
12. 多元配置の分散分析（直交配列表の利用）

相関と回帰

13. 相関係数と相関分析
14. 回帰式と回帰分析

科目名〔インテリア繊維製品〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

インテリア関連の繊維製品は、一つの重要な位置を占めている。これらの繊維製品の種類、素材、品質などにつき、基本的な知識をもつことが必要である。

〔水準〕

インテリア繊維製品の構成や品質につき理解し、インテリア商品について適切な評価ができる程度。

〔内容〕

1. インテリア繊維製品について（導入）

カーペット

2. 歴史と現況
3. 種類と機能
4. 素材、染色、加工
5. 施工、メンテナンス

カーテン

6. 歴史と現況
7. 種類と機能
8. 素材、仕上げ、加工
9. 品質、試験法
10. 縫製、施工、メンテナンス

壁紙(クロス)

11. 歴史と現況
12. 素材、製法、加工
13. 品質、試験法、メンテナンス

その他のインテリア製品

14. 椅子張り地、クッション、テーブルクロスなど

科目名〔テキスタイルデザイン〕

〔B、実習、1単位〕

〔必要理由〕

衣服の企画、設計にあたって、材料学で学んだ織物に関する基礎知識をもとに、その目的や用途にあった物性、風合い、色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択ができることが必要である。

〔水準〕

目的や用途にあった織物、および色柄の形成によるテキスタイルデザインができる程度。

〔内容〕

1. 授業計画および実習時の危険防止に対する注意事項

テキスタイルデザインの基礎

2. 繊維素材
3. 編織物
4. 布地の風合い
5. 代表的な織物の名称と組織
6. 糸密度、糸の太さと織物との関係
7. 糸の種類、組織と風合いとの関係

手織機によるテーブルセンターの製作

8. 織物設計
9. 整経
10. 製織
11. 仕上げ

プリントによるパターンデザイン

12. テキスタイルデザインソフトによるデザインの企画
13. テーブルクロスデザインのデザイン
14. 布へのプリント

科目名〔被服整理学〕

〔A、講義、2単位〕

〔必要理由〕

洗濯など衣服の適切な取扱いを学ぶことは、衣服に関わる業界において、清潔と耐洗濯性の視点から商品企画、販売、クリーニング、消費者対応などの業務を遂行するうえで必要である。

〔水 準〕

洗濯の必要性、洗浄理論、洗濯方法、保管、廃棄方法、洗濯と環境との関係を理解できる程度。

〔内 容〕

汚れ・水・洗剤

1. 被服の汚れの種類とそのつき方、汚れによる被服の性能低下
2. 洗濯用水と衣料用洗剤（洗剤の変遷・種類・表示、環境問題）
3. 界面活性剤の性質・作用・分類
4. 衣料用洗剤に配合されている添加剤

洗濯・脱水・乾燥

5. 洗濯機と家庭洗濯
6. すすぎ、脱水、乾燥

洗浄力試験

7. 洗浄力の試験法と評価

漂白・増白・しみ抜き・仕上げ・保管

8. 漂白、増白
9. しみ抜き、糊つけ、仕上げ（柔軟仕上げ、アイロン仕上げ）
10. 被服の保管と防虫・防かび

商業洗濯

11. ドライクリーニング、ランドリー、ウエットクリーニング

取扱い絵表示・トラブル・廃棄・環境関連

12. JIS L 0001による繊維製品の取扱いに関する表示記号と試験法
13. 洗濯・クリーニングに伴うトラブル
14. 被服の廃棄とリサイクル

<テキスト>

被服整理学

科目名〔染色加工学〕

〔A、講義、2単位〕

〔必要理由〕

繊維製品には染色加工が施されているので染色加工に関する基礎知識が必要である。

〔水 準〕

染色加工および染色堅ろう度の基礎が理解できる程度。

〔内 容〕

色について

1. 光と色、測色と表色

染色に必要なもの、および前処理

2. 染料、薬剤、水
3. 前処理工程(毛焼・糊抜き・精練・漂白・増白)

染料について

4. タンパク繊維を染める染料(酸性染料・酸性媒染染料など)
5. セルロース繊維を染める染料(反応染料・直接染料・バット染料・硫化染料・ナフトール染料など)
6. 合成繊維を染める染料(カチオン染料・分散染料など)

染色の基礎

7. 染色の基礎理論ー染まるとはー
8. 染色条件(時間・温度・浴比・濃度)
9. 染色の方法(浸染・捺染)

伝統的な染法・染料・文様など

10. 友禅、絞り染め、藍、紅花、小紋、更紗など

染色物の変退色、事故例、環境との関わり

11. 変退色が起こる要因(外的要因・内的要因)
12. 染色堅ろう度(耐光・洗濯・汗・摩擦など)
13. 色に関わるトラブル事例
14. 染色の環境問題(染色廃水など)と安全性

<テキスト>

染色加工学

科目名〔被服整理学実験〕

〔A、実験、1単位〕

〔必要理由〕

被服整理学で学んだ洗濯や保管に関わる事柄について、実験を通して理解を深める必要がある。

〔水準〕

被服の洗浄に関わる現象を理解し、有効な洗濯および取扱いが実践できる程度。

〔内容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

洗剤水溶液の性能試験

2. 溶解性、pH、浸透力
3. 乳化、分散、起泡性、蛍光増白

表面張力・界面張力の測定

4. 洗剤水溶液・界面活性剤水溶液の濃度と表面張力・界面張力との関係
5. 固体の表面張力の推定

洗浄力試験

6. 洗剤濃度の影響
7. 洗浄温度の影響
8. 洗浄時間の影響
9. 浴比の影響

機械作用の評価法

10. 各種市販試験布による試験
11. 羊毛収縮試験布等による試験

洗濯関連のその他の実験

12. 乾燥、脱水に関する実験
13. 漂白、蛍光増白に関する実験
14. 糊づけ、アイロン仕上げ、しみ抜きなどに関する実験

〔設備〕

必要度	機 械 器 具 名	規定量	備 考
○	表面張力計	1	
○	家庭用電気洗濯機	2	
○	恒温乾燥器	1	
○	精密天秤	2	
※	接触角測定装置		
※	pHメーター		
※	洗浄力試験機		
※	蛍光検査灯		
※	家庭用タンブラー型乾燥機		
※	表面反射率計		

科目名〔染色加工学実験〕 推奨科目

〔B、実験、1単位〕

〔必要理由〕

染色加工製品の消費性能を理解し、クレームが発生したときの問題解決や商品企画などに必要な染色に関する知識を実験を通して理解することが必要である。

〔水準〕

染色に関する基礎理論が理解でき、実際に応用できる程度。

〔内容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

染料水溶液に関する実験

2. 染料の溶解性

3. 吸収スペクトルの測定と検量線の作成

染色条件に関する実験

4. 染料濃度の影響、染色時間の影響、染色温度の影響

5. 浴比の影響、助剤の効果

染色布の測色等に関する実験

6. 表面反射率、K/S値

7. 測色

セルロース繊維の染色

8. 直接染料

9. 反応染料

10. バット染料

タンパク繊維、ナイロン繊維の染色

11. 酸性染料

アクリル繊維の染色

12. カチオン染料

アセテート繊維、ポリエステル繊維などの染色

13. 分散染料

染色堅ろう度の試験法

14. 耐光堅ろう度、洗濯堅ろう度など

〔設備〕

必要度	機 械 器 具 名	規定量	備 考
○	分光光度計	1	
○	測色色差計	1	
○	定温湯煎器	5	
○	恒温乾燥器	2	
○	精密天秤	2	
○	pHメーター	2	
○	洗濯試験機	1	ラウンダオメータ
○	グレースケール（変退色・汚染）	1	
※	耐光堅ろう度試験機		
※	標準光源		
※	摩擦堅ろう度試験機		
※	汗堅ろう度試験機		

科目名〔繊維加工学〕 推奨科目

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

繊維製品には付加価値を高めるために各種の加工が施されているので、加工に関する知識が必要である。

〔水準〕

加工法とその効果、加工剤の分析法が理解できる程度。

〔内容〕

繊維の加工

1. 繊維加工の概要

セルロース繊維の加工

2. シルケット加工

3. 樹脂加工

4. 形態安定加工

羊毛繊維の加工

5. 防縮加工

6. プリーツ加工

7. 防虫加工

合成繊維の加工

8. アルカリ減量加工

9. 帯電防止加工

その他の加工、加工剤の分析法

10. はっ水加工

11. 難燃加工

12. 吸水拡散・親水化加工

13. その他の加工、繊維加工と安全性

14. 加工剤の分析法

科目名〔工芸染色実習〕

〔B、実習、1単位〕

〔必要理由〕

染色の基礎を踏まえ工芸的手法で染色品を製作し、繊維製品の審美性を高めるための染色の意義を理解することが必要である。

〔水準〕

代表的技法によって作品を染色し、染色技法の習得とデザイン力、色彩感覚を身につけることができる程度。

〔内容〕

1. 実習上の心構えと諸注意（危険防止）

染色の基礎

2. 衣料用繊維の染色
3. 各種染色技法における染色技法の特徴と製作工程

絞り染め

4. 図案の考案と下絵描き
5. 絞り
6. 染色

ろうけつ染め

7. 図案の考案と下絵描き
8. ろう描き
9. 染色

友禅染め

10. 図案の考案と下絵描き
11. 糊置き（筒がき）
12. 色差し
13. 糊伏せ
14. 地染め

科目名〔衣料用洗剤試験法〕

〔B、実験、1単位〕

〔必要理由〕

衣料用洗剤に配合されている界面活性剤の定性・定量試験、生分解性試験、漂白剤・蛍光増白剤の定性・定量試験ほかの実験を通して配合成分の性質を理解することが必要である。

〔水準〕

界面活性剤、漂白剤、蛍光増白剤に関する基礎的な試験法が理解できる程度。

〔内容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

界面活性剤の定性・定量試験

2. アニオン界面活性剤の定性実験
3. アニオン界面活性剤の定量実験
4. 非イオン界面活性剤の定性実験
5. 非イオン界面活性剤の定量実験
6. カチオン界面活性剤の定性・定量実験

界面活性剤の生分解度試験

7. 分解生物源の準備
8. じゅん（馴）化
9. 培養・サンプルの採取
10. 定量

界面活性剤と硬水

11. 耐硬水性の測定

洗剤水溶液・漂白剤水溶液の pH

12. pH の測定
13. 漂白剤の酸化還元電位の測定

蛍光増白剤

14. 蛍光増白剤の定性・定量試験

〔設備〕

必要度	機 械 器 具 名	規定量	備 考
○	表面反射率計	1	
○	pHメータ	1	
○	オートクレーブ	1	
○	無菌ベンチ	1	
○	滅菌器	1	
○	振とう培養器	1	
○	分光光度計	1	
○	酸化還元電位計	1	
※	蛍光分光光度計		

科目名〔染色堅ろう度試験法〕

〔B、実験、1単位〕

〔必要理由〕

繊維製品を扱う職種においては染色堅ろう度に関する試験法の習得が必要である。

〔水準〕

繊維製品の各種染色堅ろう度に関する基礎的な試験法が実施できる程度。

〔内容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

染色堅ろう度試験の概要

2. 試料の準備
3. 試験結果の評価方法（計器による判定を含む）

各種染色堅ろう度試験法

4. 耐光堅ろう度試験
5. 蛍光増白耐光堅ろう度試験
6. 洗濯堅ろう度試験
7. 汗堅ろう度試験
8. 摩擦堅ろう度試験
9. ホットプレッシング堅ろう度試験
10. 酸化窒素ガス堅ろう度試験
11. 塩素漂白堅ろう度試験
12. 過酸化漂白堅ろう度試験
13. ドライクリーニング堅ろう度試験
14. 塩素処理水堅ろう度試験

〔設備〕

必要度	機 械 器 具 名	規定量	備 考
○	耐光堅ろう度試験機	1	
○	洗濯試験機	1	ラウンダオメータ
○	汗堅ろう度試験機	1	
○	摩擦堅ろう度試験機	1	
○	窒素酸化物染色堅ろう度試験機	1	
○	グレースケール（変退色・汚染）	1	
※	引き裂け試験機	1	
※	乾熱試験機		

科目名〔繊維加工学実験〕

〔B、実験、1単位〕

〔必要理由〕

製品の特性を明かにするためには代表的な加工について、その処理方法、加工処理の性能評価、加工剤の分析等の基礎的な試験方法を理解することが必要である。

〔水準〕

繊維製品に施されている加工の処理方法・性能評価・加工剤分析の基礎が理解できる程度。

〔内容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

セルロース繊維の樹脂加工

2. 樹脂加工
3. 加工布の防縮性試験、防しわ性試験
4. 強度試験
5. 遊離ホルマリンの検出

羊毛の防縮加工

6. 防縮加工
7. 加工布の防縮性試験
8. SEMによる加工布の観察

はっ水加工、透湿防水加工

9. 加工処理
10. 性能試験

その他の加工

11. 消臭加工
12. 防炎・難燃加工

加工剤の分析

13. 化学分析
14. 機器分析

〔設備〕

必要度	機 械 器 具 名	規定量	備 考
○	分光光度計	1	
○	マンダラ	1	
○	防しわ性試験機	1	
○	引張試験機	1	
○	スプレー式はっ水度試験装置	1	
○	臭気検知管	1	
○	燃焼性試験機	1	
※	走査型電子顕微鏡（SEM）		
※	赤外分光光度計		
※	ガスクロマトグラフィー		

科目名〔繊維製品の取扱いに関する試験法〕

〔A、実験、1単位〕

〔必要理由〕

企業においては、商品の取扱い方に対する正しい情報を取り扱い表示として消費者に示すことが必要である。

〔水 準〕

繊維製品の素材や加工に関する知識を基礎に、企業において商品に取扱いの表示が付けられる程度。

〔内 容〕

1. 実験上の心構えと諸注意（危険防止）

洗い方

2. 洗濯温度 30℃および 40℃でノーマルかくはん
3. 洗濯温度 30℃および 40℃でマイルドかくはん
4. 洗濯温度 30℃および 40℃でジェントルかくはん
5. 洗濯温度 40℃で手によるジェントルかくはん、模擬手洗い

漂白の可否

6. 塩素漂白の可否試験
7. 酸素系漂白の可否試験

乾燥の可否

8. タンブル乾燥の可否
9. 自然乾燥の可否

アイロンの掛け方

10. 200℃限度、高い温度
11. 150℃限度、中程度温度
12. 110℃限度、低い温度

商業クリーニング

13. ドライクリーニング
14. ウエットクリーニング

〔設 備〕

必要度	機 械 器 具 名	規定量	備 考
○	シリンダ形洗濯機	1	
○	家庭用電気洗濯機	1	
○	タンブル乾燥機	1	
○	洗濯試験機	1	
○	家庭用自動温度調節器付ドライアイロン	1	

科目名〔アパレル企画論〕

〔A、講義、2単位〕

〔必要理由〕

消費者のニーズに対応した製品の企画・設計のプロセスを、具体的な事例を交えて学び、企業におけるアパレル企画の基本を理解することが必要である。

〔水準〕

市場における商品について、その企画の背景、意図、商品化までのプロセスを理解できる程度。

〔内容〕

アパレルとは

1. アパレル商品の種類と特質
2. 商品各分野の市場特性と動向

アパレル企業

3. アパレル企業とは（MD、専門職種）
4. アパレル産業の国際化

アパレル企画

5. 商品企画
6. ターゲット分析
7. ファッション情報の収集と分析
8. コンセプト設定
9. カラー・素材企画
10. コーディネート企画

マーケティングプラン

11. 展示会シミュレーション
12. 販売促進企画
13. ブランドとブランドマネージメント
14. ビジュアルマーチャンダイジング

科目名〔アパレル設計論〕

〔A、講義、2単位〕

〔必要理由〕

アパレルを設計製作するには、人体構造や人体形態把握法を理解し、人体とアパレル形態、デザインとアパレルパターンの関連を知り、アパレル素材や縫製技法を理解し、アパレルの適正な評価ができるなどアパレル設計の基本を理解することが必要である。

〔水準〕

着衣基体としての人体および人体形態把握法、人体を包むアパレルの形状、具体化するための素材の選択やパターン、縫製技法、アパレルの評価法などの要点を理解できる程度。

〔内容〕

アパレルの分類と機能

1. アパレルの分類とアパレルの機能性・審美性

人体形態の把握

2. 人体の構造
3. 人体計測

人体形態とアパレル設計

4. 人体形態と原型
5. 既製衣料サイズ
6. 動作・身体状況とアパレル設計
7. デザインとパターンへの展開

アパレル設計と素材

8. 主素材の選定
9. 副資材の選定

アパレルの縫製

10. 布地の造形性と可縫性
11. 立体化技法
12. 縫い糸と針の関係
13. 手縫いとミシン縫い

アパレルの評価

14. アパレルの評価

<テキスト>

アパレル設計論・アパレル生産論

科目名〔アパレル設計実習〕

〔A、実習、1単位〕

〔必要理由〕

アパレル製品を生産するためには、布を製品に仕上げるまでの諸工程の作業内容と品質上の意義を、実習を通して学ぶ必要がある。

〔水準〕

アパレルが、設計、縫製過程を経て完成するまでの主要な工程の要点と流れが理解できる程度。

〔内容〕

1. 実習上の心構えと諸注意（危険防止）

人体形態と原型

2. 人体形態の把握
3. 平面製図法と立体裁断法による原型作成

パターンの作成

4. 原型からのデザイン展開（胴部・袖）
5. 原型からのデザイン展開（腰部と下肢部、スカート・パンツ）
6. 原型からのデザイン展開（襟）
7. シーチングモデルの試作と確認

裁断縫製

8. 表地と副資材の選択
9. 布地の整理と裁断（地の目・縫い代）
10. 縫製手順と縫製法
11. 布地の立体化
12. 裏地、芯地の扱い
13. 縫い目の性能評価

設計縫製作業の記録と評価

14. 作品評価

<テキスト>

アパレル設計実習・アパレル生産実習

〔設 備〕

必要度	機 械 器 具 名	規 定 量	備 考
○	工業用人台	10	
○	工業用直線本縫いミシン	1	
○	縁かがりミシン	10	
○	穴かがりミシン	1	ジグザグミシン可
○	マルチン式人体測定器	1	
※	アパレル CAD システム		
※	三次元人体測定器		
※	デジタルカメラ		体型、アパレルのシルエット撮影

科目名〔アパレル生産実習〕

〔A、実習、1単位〕

〔必要理由〕

品質の良いアパレル製品を効率的に工業生産するためには、科学性と合理性を追求した生産方式が重要であることを、実習を通して学ぶ必要がある。

〔水 準〕

工業用パターンメイキング、縫製仕様書の作成および縫製仕様書に従った作業など、効率的な生産の仕組みと流れが理解できる程度。

〔内 容〕

1. 実習上の心構えと諸注意（危険防止）

工業用パターンの作成

2. 工業用パターンの作成
3. 縫製仕様書の作成

工業生産

4. 検反（原反の品質評価）と裁断（裁断用の機器の操作）
5. 効率的な縫製作業の進め方
6. 縫製（工業用直線縫いミシン、工業用縁かがりミシン、その他各種ミシンの操作）
7. 各種アタッチメントの利用
8. パーツ縫製
9. アッセンブリー縫製
10. アイロン、プレス機器の操作

縫製作業の効率化

11. 作業動作と作業能率の測定
12. 縫製作業工程分析表の作成
13. 作業工程に従った縫製機器のレイアウト（DVD 視聴覚教育に代替可）

検品と製品評価

14. 検品と製品評価

<テキスト>

アパレル設計実習・アパレル生産実習

〔設 備〕

必要度	機 械 器 具 名	規 定 量	備 考
○	工業用人台	10	
○	工業用直線本縫いミシン	1	
○	縁かがりミシン	10	
○	穴かがりミシン	1	ジグザグミシン可
○	プレス機	1	小型可
○	工業用スチームアイロン	1	
○	バキュームプレス台	1	
※	たて刃裁断機		
※	すくい縫いミシン		
※	工業用二重環縫いミシン		

科目名〔アパレル生理衛生論〕

〔A、講義、2単位〕

〔必要理由〕

アパレルは、皮膚表面を覆い、人体の最も近くに位置することから、人の生理・心理への影響は大きく、健康および快適性と密接に関わる。アパレルの生産者・消費者は、健康で快適な衣生活に資するためのアパレルの性質や機能について、人体の生理衛生の視点から理解することが必要である。

〔水 準〕

健康で快適な衣生活を遂行するための機能的なアパレルの性質を、気候への適応性、運動・動作への適応性および皮膚の生理衛生の観点から捉え、現代の著しく変化する生活環境の諸問題を踏まえつつ、アパレルの素材や構造、着装について思考できる基礎が身につく程度。

〔内 容〕

アパレルの快適性・機能性と健康

1. アパレルの快適性・機能性と健康

気候への適応

2. 気候と体温調節
3. 快適衣服気候
4. 衣服による寒さ対策
5. 衣服による暑さ対策

動作・運動への適応

6. 衣服圧の発生要因
7. 衣服圧が人体に及ぼす影響
8. ストレッチ性衣服の設計と評価

皮膚の生理・衛生

9. 皮膚の生理・衛生
10. 下着・寝衣の役割と条件

アパレルと健康に関する課題

11. アパレルの安全性（衣服による障害）
12. アパレルと環境1（クールビズ・ウォームビズ・熱中症）
13. アパレルと環境2（花粉・UV・ダニ・カビ等）
14. インクルーシブデザイン

<テキスト>

アパレル生理衛生論

科目名〔アパレル生産論〕 推奨科目

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

アパレル生産の仕組みと流れ、縫製加工の基礎と問題点を学び、アパレル生産のための改善方法、留意点を理解する必要がある。

〔水準〕

アパレル生産システムにおける工業用パターンメイキング、裁断、組み立て、合理的な作業工程、製品の評価などの要点を理解できる程度。

〔内容〕

アパレルの生産システム

1. アパレル生産とサステナビリティ
2. 生産の流れ
3. 既製衣料サイズ

アパレル設計

4. プロダクトパターン
5. 縫製仕様書

アパレル生産

6. 布地の前処理
7. 裁断および裁断パーツの処理
8. 芯貼り
9. 縫い目の種類と用途
10. 縫い合わせの種類と用途
11. 縫製機器および縫製上の問題点
12. アイロン・プレス

アパレル生産の効率化と評価

13. 縫製の管理と能率化
14. 製品の評価

<テキスト>

アパレル設計論・アパレル生産論

科目名〔アパレルデザイン論〕 推奨科目

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

アパレル製品の企画・設計には、アパレルデザインに関する基礎的な知識が必要である。

〔水準〕

アパレルの機能性、審美性、表現法を知り、適切な素材、デザイン、色彩の組み合わせによるアパレルデザインを理解できる程度。

〔内容〕

デザインの基礎

1. デザインの基礎（近代デザインの概要、デザインの定義）
2. デザインの領域（コミュニケーションデザイン、プロダクトデザイン、環境デザイン）
3. 形の見え方と捉え方（点・線・シルエット）
4. カラーコーディネーション
5. デザインの構成（比率、集中、類似、対称、対比、諧調など）

アパレルデザインの基礎

6. デザインの基礎
7. アパレル業界におけるデザイン
8. ファッションのリサーチ
9. コンセプトイメージの表現

アパレルデザインの要素

10. 用途とアイテム
11. シルエット
12. ディテール
13. アパレルの素材、色、柄、テクスチャー

作品のまとめ方

14. ポートフォリオの作成

<テキスト>

改訂アパレルデザインの基礎

科目名〔アパレル企画実習〕

〔B、実習、1単位〕

〔必要理由〕

消費者のニーズに対応した製品の企画・設計のプロセスを体験的に学び、企業におけるアパレル企画の基本を理解することが必要である。

〔水準〕

主な服種についてデザイン・素材・配色などの具体的な企画資料を作成できる程度。

〔内容〕

アパレル企画の構想

1. 製品企画の構想
2. 消費者動向の分析
3. ターゲットマップの作成
4. ファッショントレンド情報の収集と分析
5. 関連市場・商品情報の収集と分析
6. キー・コンセプトマップの作成

アパレル企画の展開

7. 素材、カラー、デザイン別企画マップの作成
8. コーディネート企画マップの作成
9. 主要アイテムに関する個別のデザインプラン
10. サイズ構成、価格構成
11. 縫製仕様の作成と製造原価の概要

マーケティングプラン

12. シーズン別企画・生産・販売の展開スケジュール作成
13. キャンペーン広告プランモデルの作成
14. ビジュアルマーチャンダイジングの試み

科目名〔アパレルデザイン表現実習〕

〔B、実習、1単位〕

〔必要理由〕

アパレルの企画に沿って、デザイナーと生産者、バイヤーとのコミュニケーションのツールとしてのアパレルの表現法を身につける必要がある。

〔水準〕

スケッチ、ファッションイラストレーションの基礎を学び、主なアイテムについて、企画コンセプトに従ったデザインを想定し、アパレルを表現できる程度。

〔内容〕

ファッションソースの捉え方

1. ファッションソースのとらえ方

人体の表現

2. 人体を捉える

ファッションデザインの表現法

3. ファッションにおけるイラストレーション
4. アパレルデザインの表現方法
5. テンプレートを用いた手書きによる人体描写
6. 手書きによるアパレルの描写(応用)
7. コンピュータグラフィックでの描写の基礎
8. コンピュータグラフィックでの描写の応用
9. 彩色の方法
10. テクスチャーと柄の表現
11. ディテールの表現
12. コーディネートの表現

テクニカルドローイング

13. テクニカルドローイングの実践
14. デザイン画と製品図の作成

〔設備〕

必要度	機 械 器 具 名	規定量	備 考
○	コンピュータ	1 /人	CGソフト（イラストレータ、フォトショップなど）
※	プロジェクター		

科目名〔アパレル CAD 実習〕

〔B、実習、1単位〕

〔必要理由〕

アパレル CAD はアパレルの設計・生産工程を効率化するための重要なツールである。パターンメイキングからプロダクトパターンの作成に至るまでの多様な工程を理解する必要がある。

〔水 準〕

アパレル CAD に関する基礎知識を学習し、周辺機器、アパレル CAD の使い方を理解し、基本操作ができる程度。

〔内 容〕

アパレル CAD の概要と基本操作

1. アパレル CAD の概要
2. スキャナまたはデジタイザによるパターン入力
3. アパレル CAD の基本操作（描画、移動・回転、データ修正、データ管理）

パターンメイキング

4. スカートの作図、デザイン展開
5. 胴部原型のダーツの移動
6. ブラウスの作図
7. ワンピースの作図
8. パンツの作図

工業用パターンの作成

9. パーツ化・縫い代付け
10. グレーディング
11. マーキング
12. 縫製仕様書の作成
13. プロッタ操作
14. 着装シミュレーション

〔設 備〕

必要度	機 械 器 具 名	規 定 量	備 考
○	アパレル CAD システム	15	
○	3D-CAD ソフト	1	
○	スキャナまたはデジタイザ	1	
○	プロッタ	1	
※	プリンタ	1	

科目名〔色彩学〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

被服をはじめとして日常生活のあらゆる分野に関わる色彩について、光学・心理学的な基礎を学習する必要がある。

〔水準〕

色彩と光学の基礎知識を習得するとともに、被服をはじめ日常生活における色彩の選択、色彩設計の基本が理解できる程度。

〔内容〕

色彩光学の基礎

1. 光と色
2. 眼の機能と視覚
3. 色彩の知覚的效果
4. CIE 表色系
5. 均等色差分析—L*a*b 表色系
6. マンセル表色系・色名表示

色彩心理（色彩感情）

7. 色彩の心理効果
8. 色彩心理の分析法
9. 流行色の分析・予測

配色とその効果

10. 配色の効果
11. 配色効果の分析
12. ファッションのカラーデザイン

生活における色と色彩設計

13. 生活環境の色彩設計
14. ファッションデザインにおける色彩設計

科目名〔色彩実習〕

〔B、実習、1単位〕

〔必要理由〕

色彩学で得た知識を、被服や生活空間の表現に具体的に活用するために必要である。

〔水準〕

被服や生活空間に関わる色彩設計の基本を理解し、配色やカラープランニングができる程度。

〔内容〕

色彩光学

1. 光と色
2. 色彩の知覚効果
3. 色の分析と表示—CIE表示・L*a*b*表示
4. 色の分析と表示—マンセル表示・色名表示

色彩心理と配色

5. 色の感情効果
6. 配色実習
7. 配色と錯視効果
8. 流行色分析とコンセプト立案
9. 服装における色彩効果

カラープランニング

10. 生活空間における色彩効果
11. 体型・顔色と服装のカラーコーディネーション
12. 服装のカラーコーディネーション1（カジュアル）
13. 服装のカラーコーディネーション2（オフィシャル・フォーマル）
14. カラープランニングマップの作成

科目名〔アパレルグラフィック実習〕

〔B、実習、1単位〕

〔必要理由〕

衣料品の売り場展開に必要な企画、演出、ディスプレイ、宣伝広告のための簡単な資料を作成できることが必要である。

〔水準〕

ファッションの広告や、商品ディスプレイのためのコンピュータグラフィックデザインの基礎が身につく程度。

〔内容〕

視覚伝達の基本事例

1. 視覚伝達の基本
2. 基本用語の説明
3. 映像、写真、印刷物、ディスプレイなどの主な事例

グラフィックデザインの技法

4. デザインに必要な用具の使い方と表現方法
5. グラフィックデザインの技法
6. 基本的な構成実習
7. デッサン
8. レタリング
9. 色彩構成
10. レイアウト

画像データの利用法

11. 画像データの利用法

広告・宣伝ポスター

12. 媒体広告、宣伝ポスターの作成

ショーイングディスプレイ

13. ディ스플레이デザインの構成要素
14. ショーウィンドウ・ショップのディスプレイ

〔設 備〕

必要度	機械器具名	規定量	備 考
○	コンピュータ	1/人	CG ソフト（イラストレータ、フォトショップなど）
※	スキャナ	1	
※	デジタルカメラ	1	
※	プリンタ	1	カラー

科目名〔インテリアコーディネート概論〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

複雑多様化するインテリア製品の知識と技術の両面に関する理解を持つことが必要である。

〔水準〕

インテリアに関する総合的な知識を持ち、目的に応じた適切な商品選択とコーディネートができる程度。

〔内容〕

インテリアコーディネーション

1. インテリアとは何か
2. 建物とインテリア
3. 住宅のインテリア

インテリアの基礎知識

4. 住まいとは
5. 住宅の種類
6. 住宅の構造（下地材と仕上材）

インテリアエレメント

7. 床のエレメント
8. 壁・天井のエレメント
9. 窓回りのエレメント
10. 照明器具・家具および建具

インテリアの計画

11. 暮らしとインテリアの実際（スライド、VTR等）
12. 配置と動線
13. エレメントの選択

法規・法令

14. 関連する法規・法令（防災・防燃性能）

科目名〔アパレル生理衛生実験〕

〔B、実験、1単位〕

〔必要理由〕

アパレル生理衛生論の講義で得た知識を、具体的に実験を通して理解を深めることが必要である。

〔水 準〕

人体の生理機能、温熱環境因子、各種指標を知るための測定機器の種類、測定法を理解させるとともに、着用実験を通して快適な着用条件を実現するための指標を測定する方法とその意味を理解できる程度。

〔内 容〕

1. 実習上の心構えと諸注意(危険防止)

気候適応に関する測定

2. 気温、気湿、気流、放射の測定
3. 温熱指数〈不快指数等〉の算出
4. 体温、皮膚温の測定
5. 発汗量・衣服気候の測定
6. 安静時、動作時エネルギー代謝の測定と計算

衣服圧とその影響に関する測定

7. 被服圧と拘束感の測定
8. 脈拍、血圧、皮膚血流量
9. 姿勢・身体動揺の測定
10. 筋電図の測定
11. 動作分析
12. リラックス感分析〈心拍変動・唾液分析等〉

皮膚の生理に関する測定

13. 皮膚の性状〈水分・脂質・pH等〉の測定
14. 皮膚汚れの抽出・分析

〔設 備〕

必要度	機 械 器 具 名	規 定 量	備 考
○	アスマン通風温湿度計	2	またはアウグスト乾湿寒暖計
○	熱線風速計	2	
○	黒球温度計	2	
○	体温計	20	
○	皮膚温測定装置	1	6チャンネル
○	衣内温湿度測定装置	1	6チャンネル
○	発汗測定装置	1	
○	血圧・心拍計	1	
○	被服圧測定装置	1	
○	体重計	1	
○	体組成計	1	
○	マルチン式人体計測器	1	
※	呼気ガス分析装置	1	
※	風車風速計		
※	血流計		
※	サーモグラフィ		
※	生体用ポリグラフ		筋電図、脳波測定用
※	エルゴメーター		
※	トレッドミル		
※	ビデオカメラ		
※	動作解析装置		

科目名〔機能アパレル論〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

アパレルに求められる機能は、服種・着用者によって異なる。快適で機能的・安全で健康的なアパレルの企画に際しては、その特性を着用者別に、また服種別に理解しておく必要がある。

〔水準〕

代表的な服種について、特に留意すべき機能性を人体特性との関係において理解し、それに対応した素材や構造、その評価方法等について選択することができるとともに、アパレル企業における今後の課題について考えることができる程度。

〔内容〕

機能アパレルの条件

1. 機能アパレルの条件

着用目的別アパレルの機能と企画上の留意点

2. 肌着
3. 整容下着
4. 靴下・ストッキング
5. スリーピングウェア
6. スポーツウェア
7. ワーキングウェア
8. 靴等
9. 被り物・眼鏡・マスク

着用者別アパレルの機能と企画上の留意点

10. 乳・幼児服
11. 高齢者服
12. 障害者服

アパレル企業における今後の課題

13. 機能アパレルの評価方法の確立
14. 製造責任・消費者クレームへの対応

科 目 名〔消費科学〕

〔A、講義、2単位〕

〔必要理由〕

繊維製品の生産から消費に至る分野で活躍するために、繊維製品の品質、消費者行動、繊維製品の生産・流通・消費に関する知識を体系的に学ぶことが必要である。

〔水 準〕

繊維製品について、消費者が望む品質を知り、消費者行動を理解し、生産・流通・消費の基礎的知識を持つ程度。

〔内 容〕

1. 消費科学とは

繊維製品の品質

2. 品質とは

3. 品質の評価

4. 品質保証

5. 品質表示

6. 繊維製品の安全性、消費者苦情

消費者行動

7. 消費者行動の特徴

8. 消費者行動の要因

9. 商品・店舗と消費者

10. 消費者調査

繊維製品の生産・流通・消費

11. 繊維産業の構造

12. 繊維・繊維製品の生産

13. 繊維製品の流通

14. 繊維製品の消費、地球環境と繊維製品

<テキスト>

衣生活のための消費科学

科 目 名〔消費生活論〕

〔A、講義、2単位〕

〔必要理由〕

安全で豊かな消費生活を送るために、消費者問題の現状と、それに対して消費者、行政、企業がなすべきことを知る必要がある。

〔水 準〕

消費者問題を体系的にとらえ、安全で豊かな消費生活を確立するための消費者、行政、企業のあるべき姿を理解できる程度。

〔内 容〕

1. 消費者問題の基礎

消費者問題と消費者政策

2. 消費者政策の転換－消費者保護基本法から消費者基本法へ－
3. 消費者政策の理念
4. 消費者行政と消費者関係法

消費者政策の展開

5. 消費生活の安全の確保
6. 広告・表示の適正化
7. 消費者契約の適正化

企業の消費者対応

8. 事業者と事業者団体の責務
9. 消費者対応部門の役割と機能
10. 消費者対応部門の課題
11. 事業者団体の消費者対応

消費者教育

12. 消費者教育の歴史・担い手・内容など

消費生活情報

13. 消費生活における情報の重要性
14. 消費生活情報の現況

<テキスト>

新版 消費生活論

科 目 名〔テキスタイルアドバイザー実習〕

〔A、実習、1単位〕

〔必要理由〕

卒業後、テキスタイルアドバイザーとして関連の実務につくためには、在学中に実習を通して、職場の現状と実務を体得しておくことが必要である。

〔水 準〕

繊維製品の試験、検査、企画、生産、流通、販売などの関連企業や、消費者行政機関などの該当部門において、45時間（1単位分）〔事前指導、レポート、発表会、反省会などを含めてもよい〕以上の実習を行い、職場の現状を体得できる程度。

〔内 容〕

次に示すA～Eについて、受入先の実態に応じて実習させるものとする。

- A. 企画・設計業務
- B. 流通・販売業務
- C. 品質管理・品質保証業務
- D. 試験・検査業務
- E. 消費者対応・相談業務
- F. その他、「水準」規定に相当する程度のこと期待できる業務

科 目 名〔ファッションビジネス論〕 推奨科目

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

ファッションビジネスの全貌を知り、その中のアパレル産業・小売業の現状・問題点・将来を理解することは、ファッション産業で活躍する者にとって必要である。

〔水 準〕

ファッションビジネスの範囲と特色を知り、ファッション産業の仕組みと現状を理解できる程度。

〔内 容〕

ファッションビジネスとは

1. ファッションの歴史、ファッションビジネスとは

ファッション産業の種類と構造

2. 繊維素材産業
3. テキスタイル産業
4. アパレル産業
5. アパレル小売産業

アパレル産業の現状と将来

6. オートクチュール、プレタポルテ
7. 日本のアパレル産業
8. 先進国と途上国のアパレル産業
9. ビジネスのグローバル化
10. 消費者の購買行動の変化
11. 人材育成（職種別の対応）

アパレル小売業の現状と将来

12. 日本のアパレル小売業の歴史
13. 主要アパレル小売業態の現状
14. アパレル小売業の課題と将来

<テキスト>

ファッションビジネスの基礎知識

科目名〔マーケティング論〕 推奨科目

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

マーケティングの基本を理解するとともに、アパレルビジネスに焦点をあてたマーケティング活動の基礎を学ぶことが必要である。

〔水準〕

アパレルビジネスで展開されているマーケティングを理解できる程度。

〔内容〕

アパレルマーケティング

1. アパレルビジネスとマーケティング
2. マーケティングとは、マーケティングリサーチとは

マーケティング戦略

3. マーケティング戦略とは
4. 3C (Consumer、Corporation、Competitor) と 4P (Product、Price、Place、Promotion)
5. 市場環境の変化とその予測
6. 小売店出店戦略

ターゲット設定と商品企画

7. ターゲット設定
8. 商品企画 (新製品開発)

マーケティング計画

9. 品揃え計画
10. プロモーション
11. ビジュアルマーチャンダイジング
12. ファッション小売業における販売

マーケティング効果

13. 顧客満足 (CS)
14. 価値のデリバリー

<テキスト>

ファッションビジネスの基礎知識

科目名〔生活行動論〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

商品の企画や販売の仕事に当たっては、生活の各シーン（場面）を想定し、それを正確に把握する必要がある。

〔水準〕

種々の生活シーンごとに、変化しつつある生活実態と消費者意識の関係を知り、それらが生活や購買行動にどのように影響するかを理解できる程度。

〔内容〕

景気動向と生活

1. 経済指標と消費者の購買行動の関係
2. 家計指標と消費者意識の関係

家族のライフサイクル

3. 家族構成の変遷と所得と支出の増減（ステージの代表的な生活シーン）
4. ステージ別の価値観

ライフスタイル

5. ライフスタイル重視化の背景
6. ライフスタイルの表現と特徴
7. ライフスタイルと産業（ライフスタイルを援助する様々な企業活動）

社会の変化と家事行動

8. 社会の変化が与える家事行動への影響
9. 家庭における育児と教育の変遷

余暇行動

10. 余暇の社会背景
11. 余暇と社会行動（余暇をボランティア活動に充当するなど）
12. 余暇の効用（余暇を癒しから創造の機会などと捉える）

購買行動

13. 購買行動の多様化
14. 購買行動とファッション

科 目 名〔ファッション販売論〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

ファッション小売店は、生活者、作り手、売り手の3者の接点として、重要な拠点になっている。ファッションビジネスの分野で活躍するうえで、小売店の機能を知るとともに、用語を含めた小売業に関する基本的な理解が必要である。

〔水 準〕

ファッション販売の具体的な仕組みと社会に果たす役割が理解できる程度。

〔内 容〕

ファッション販売とは

1. ファッション小売業の歴史
2. ファッション小売業態の変遷

ファッション小売企業の組織と職務

3. 業態別ファッション小売企業の組織体制
4. 小売店の職務の種類

ファッションビジネスの仕組み

5. 小売マーケティング
6. ブランドとショップコンセプト
7. 事業計画と出店戦略
8. ターゲットと販売の仕組み
9. 販売スタッフの役割
10. 商品市場と仕入れの仕組み
11. バイヤーの役割
12. 商品開発とPB商品

ファッション小売企業の課題と展望

13. ショッププロモーション
14. ファッション小売業の課題と展望

<テキスト>

ファッションビジネスの基礎知識

科 目 名〔ファッションリテール実習〕

〔B、実習、1単位〕

〔必要理由〕

ファッションビジネスでは、店舗づくりのプロセスを具体的に理解してなければならない。「ファッション小売店舗出店計画」立案の演習を通じて基本的な、出店（起業）のプロセスを理解することが必要である。

〔水 準〕

起業のプロセスと全体像を理解し、具体的な出店企画書をまとめることができる程度。

〔内 容〕

実習の意味と準備

1. 課題の提示（グループ編成）
2. 市場環境の認識とテーマの探索・決定

コンセプトの確立

3. マーケティング戦略の構築
4. 店コンセプトの策定
5. ターゲットの明確化
6. ビジネスモデルの構築

各論、諸計画の立案

7. 立地調査と立地の決定
8. 販売計画
9. 品揃え計画
10. プロモーション計画

出店企画書の作成とプレゼンテーション

11. 出店企画書の作成
12. 投資採算計画の作成
13. プレゼンテーション技術と報告書
14. プレゼンテーションの実施と反省

〔注〕

通常の実習1単位では、授業効果の上で時間が不足する。それゆえ、時間外の作業時間（90分×15回）が別にとれれば望ましい。

科 目 名〔ファッション商品論〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

ファッション商品の知識により商品学の意義を把握すると同時に、主要な被服の品目について、各商品の特性を商品学的な視点で理解することが必要である。

〔水 準〕

商品論の意義と同時に、主要な被服の品目について、市場動向、商品の種類、品質、価格、生産、流通の概要を理解できる程度。

〔内 容〕

商品学とは

1. 商品学の概念と意義

ファッション商品の諸性格と品質

2. ファッション商品の特質
3. ファッション商品の諸性格
4. ファッション商品の品質
5. ファッション商品の技術・生産・流通

ファッション商品市場

6. ファッション商品の市場の規模と推移
7. ファッション商品の分類

ファッション産業の概要

8. ファッション産業のビジネスと企業
9. ファッション産業の変遷

商品各論（市場動向、商品の種類、品質、価格、生産、流通など商品特性）

10. 婦人服
11. 紳士服
12. ベビー・子供服
13. スポーツウエア
14. 和装、下着、靴下

<テキスト>

ファッションビジネスの基礎知識

科 目 名〔消費者調査法〕

〔B、演習、1単位〕

〔必要理由〕

消費者に関する調査を正しく行う技術と、調査の結果を正しく理解できる知識を得ることが必要である。

〔水 準〕

消費者調査の方法を理解し、調査データのまとめと調査結果の考察のための基本が分かる程度。

〔内 容〕

1. 消費者調査とは

消費者調査の種類と方法

2. 利用目的による分類、情報の種類による分類、量と質による分類
3. 情報の収集による分類（質問紙調査法、観察法）、動機調査

調査票の作成

4. 質問紙調査法の手順、調査票作成の手順
5. 調査票作成の仕方

調査対象者の選び方

6. 全数調査と標本調査、母集団と標本
7. 標本抽出法
8. 標本誤差と標本数

集計と分析

9. 集計の準備、集計の実施、集計データの分析

衣料の消費実態調査

10. 調査の概要
11. 消費実態調査・トピックス調査の実例

総合演習（質問紙調査法）

12. 調査企画、調査票の作成
13. 調査の実施、集計・分析
14. 発表、反省

<テキスト>

新版 消費者調査法

科 目 名〔衣生活文化論〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

文化の形成に被服が大きな役割を果たしてきた経緯を知り、衣生活と産業・社会・環境との関わりを学び、さらに衣生活が着用者および生活文化に与える影響を知る必要がある。

〔水 準〕

被服と生活文化、被服と社会、被服と着用者の関わり合いが理解できる程度。

〔内 容〕

生活文化とは

1. 生活文化の形成と発達
2. 文化の地域差、自然環境や生産活動の違いと文化の地域差の関係
3. 文明の盛衰の背景と文化の交代

服飾文化

4. 服飾の起源、服飾を身に着けるに至った経緯とその際の衣服材料
5. 服飾の伝統と変遷(1)海外について
6. 服飾の伝統と変遷(2)日本について
7. 服飾の機能・要素・品目
8. 服飾制作の技術(1)海外について（世界の素材製造・染色仕上げ・縫製）
9. 服飾制作の技術(2)日本について（日本の伝統的な生地・染色・仕上げと産地）

衣生活文化

10. 衣生活と産業（産業革命から国際分業まで）
11. 衣生活と環境問題（生産過程と消費過程の諸問題と対策）
12. 衣生活と社会（慣習・制度・規範）
13. 服飾の個性化と画一性
14. 衣生活と文化の創造（日本の多様な衣生活文化を世界に発信）

科 目 名〔消費者経済学〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

経済社会の仕組みを理解し、それらの仕組みが消費者行動に与える影響を知る必要がある。

〔水 準〕

経済社会の基本的な特質を知り、それらが生活の各面でどのように現れ、それらに対処できる程度。

〔内 容〕

所得と支出

1. 経済成長と消費（国内総所得 [GDP]・所得水準 [一人当たり GDP]・経済成長率・景気の循環・消費性向など）
2. 支出構成比の変化

生活水準

3. 生活水準（所得・資産・社会資本）

労働

4. 産業労働（産業の分類と推移・勤務時間と通勤時間・コストの構造）
5. 家事労働（産業労働との違い・家事コストの算出例）

価格

6. 価格の決定要因と消費者物価指数
7. 需要の価格弾力性

市場

8. 市場の意義と働き
9. 寡占と独占禁止法

産業社会の変化

10. サービス産業の特質
11. 情報化社会の特質
12. 産業のグローバル化

適量

13. 商品の基本的性格
14. 新製品の開発と普及の過程

科目名〔被服心理学〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

被服の選択・購入・着装などの消費者の被服行動に影響する心理的要因について、社会心理学的、感覚・感情心理学的立場からの知識を身につけることが必要である。

〔水準〕

被服の選択・購入・着装などの被服行動に影響する心理的要因について、個人的、対人的・文化的の観点から、要因の影響を理解できる程度。

〔内容〕

1. 被服心理学の概要

個人的要因

2. 被服と感覚・感情
3. 被服の選択動機と欲求
4. 自己概念と被服行動
5. 態度と被服行動
6. ライフスタイルと被服行動

対人的要因

7. 被服の情報伝達機能
8. 被服と対人認知
9. 被服と対人行動

社会的・文化的要因

10. 集団行動と被服
11. 社会的役割と被服
12. 社会規範と被服
13. 流行と被服
14. 衣生活と装いの心理（衣料品の購買心理、装いによる情動の活性化など）

科 目 名〔ケーススタディ〕

〔B、実習、1単位〕

〔必要理由〕

繊維製品の品質苦情の発生を未然に防止することは、企業の使命であるので、苦情発生の原因究明、対策および再発防止策に関する知識を身につけることが必要である。

〔水 準〕

繊維製品の品質苦情を解決するための手順を理解し、原因究明と再発防止対策には、どのようなことをすればよいかを考えることができる程度。

〔内 容〕

繊維製品の苦情処理の基礎知識

1. 品質苦情の発生原因
2. 品質苦情を処理する手順

品質苦情の事例とその対策

3. 生地 of 損傷（破れ）
4. 生地 of 損傷（穴あき、パイルの脱落）
5. 縫い目の損傷、副資材・付属品の損傷
6. 外観変化
7. 形態変化
8. 風合い変化・光沢変化
9. 変退色
10. 色泣き、汚染
11. 白化、黄変、リバーズ
12. 加工の機能性低下
13. 安全・衛生
14. 表示の不適正

<テキスト>

繊維製品の品質問題究明ガイドー消費者苦情の原因究明・再発防止策ー

科 目 名〔ファッションビジネスの世界〕

〔B、講義、2単位〕

〔必要理由〕

衣料管理士としてのファッションビジネスに係わるさまざまな仕事に関して、その中身やビジネス環境、その仕事に必要な能力を知って、大学での勉強や将来のキャリア形成のための具体的な目標設定に役立てる必要がある。同時に、ファッション用語の基本を理解する必要がある。

〔水 準〕

ファッションビジネスの入門編の位置づけとする。ファッションに関連するさまざまな仕事の現場を包括的に理解できる程度。

〔内 容〕

ファッションビジネスとは

1. ファッションビジネスの特徴
2. ファッションビジネスの環境（グローバル化、少子高齢化、地球環境問題など）

ファッションビジネスの職種とその体系

3. マーチャンダイジング
4. 商品企画・デザイン
5. 生産・パターンメイキング
6. プロモーション
7. バイイング
8. 営業・マーケティング
9. 品質管理
10. 研究・開発
11. 販売・消費者対応
12. 広報（ファッション雑誌、ファッションショー、商品の貸出し、プレス）

必要な知識・能力・求められる人材

13. 必要な知識・能力・求められる人材
14. 衣料管理士としての心構え

<テキスト>

ファッションビジネスの基礎知識

一般社団法人 日本衣料管理協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 2-11-13-205

TEL 03-3437-6416

FAX 03-3437-3194